

## かぎん未来創造プランコンテスト受賞報告

杉浦 剛

指導教員 顎顔面疾患制御学分野

あの日のことは、とても鮮明に覚えている。

平成30年9月初旬のある日の昼下がり。教授室のドアがノックされた。

「歯学部4年の尾林です。杉浦先生ちょっとお時間いいですか？」

尾林さんは鹿児島大学生には珍しく要領よく何でもそつなくこなすいわゆるスマートな学生。教室では一番前の窓際に座っている。講義終わりには時々質問をくれるので今日も口腔外科学の質問かな？と思って話を聞いてみた。

尾林さん：「先生、私は起業を考えています。」

杉浦：「えっ??？」

尾林さん：「訪問歯科診療って、なかなかニーズのあるところには届いてないような気がするんです。それに受け手側の歯科医師もレベルも違う、キャパも違う。それをアレンジするシステムを作って売ろうかと思うんです。」

私は大変驚いた。彼女の言うことは的を射ていて、大学でも十分な教育ができていない領域。超高齢化により訪問歯科診療のニーズは高まっているが受け手側の歯科医師の偏在も問題になっているし、患者さん側もどこに相談したらいいかわからないという声も多く聞いている。たまたま私は歯科部門改革の一策として、訪問歯科診療で対応が困難な全身状態の悪い高齢者を、短期入院集中歯科治療で受け入れられないか、鹿児島市歯科医師会の先生方にニーズ調査をしていただいていたこともあり、なかなか鋭いことを考えるものだと感心した。でも起業って？さらに彼女は続ける。

尾林さん：「美容室の予約アプリってあるじゃないですか。あんな感じで患者さんと歯科医師をもっと簡単に繋げられるんじゃないかなと。」

面白いけれど、ニーズや歯科医師会のこともあるし、そう簡単にはいかないよと若干現実的な話をしてみると、既にこの計画が「かぎん未来創造プランコンテスト」の一次選考（書類審査）を通過しているとい

う。基礎データを見せてもらうと市場調査までちゃんとしている。自分だけでここまでするのは、素晴らしい。

彼女の相談は、2次選考はプレゼンテーションによる選考なのでアドバイスが欲しいということだった。当分野にはかぎん文化財団賞を受賞した濱田講師もいるので私と濱田で2次選考をブラッシュアップしたところ、無事通過、最終選考のプレゼン選考では最高賞の未来創造プラン大賞受賞に至った。

受賞報告に教授室に来てくれた彼女に「これからが大変だね。公に賞金をもらおうと実現しなくちゃいけないし、収支報告もしていかなきゃいけないでしょう？」と聞くと、「いや、賞金なので、何に使ってもいいのです。実はもう使い道が決まっています。」

現代っ子らしくて驚きもしたが、真面目過ぎるわけじゃないのだと少し安心した。尾林さんの未来創造プランは鹿児島銀行の実務担当者を交え、実現に向け前進中である。私達も引き続き、後見人としてサポートを続けていくことになっている。鹿児島大学発・学生発の事業になっていくのか、期待しつつ見守りたい。

